

ア！ 安全・快適街づくりニュース

ア！安全・快適街づくり17年度事業計画の重点活動

「新小岩公園のスーパー堤防化」で安全な避難場所確保

葛飾・江戸川両区と地域住民・当NPOが実現に向けてシンポジウム開催

◇浸水シミュレーション結果を西新小岩地区住民に紹介

～5月16日第4回総会開催～

「ア!安全・快適街づくり」は、5月16日に第4回の総会を開催し、17年度事業計画（案）・予算（案）、16年度事業報告（案）・決算（案）等の審議を行ないます。

17年度の事業計画（案）は、次の活動を中心にして策定されました。

1. 新小岩公園スーパー堤防化のシンポジウム

葛飾区と江戸川区の住民の災害時避難場所の一つである新小岩公園をスーパー堤防化し、安全な避難場所とすることを目指します。

このため、葛飾区、江戸川区並びに関係地域住民と一緒にとなってシンポジウムを開催し、国、東京都に対しその実現のための働きかけを行ないます。

2. 浸水シミュレーションを地域住民に紹介

都市再生プロジェクトで作成した地震時堤防決壊による浸水シミュレーション結果を西新小岩地区住民に紹介します。

3. 水位表示板設置箇所の拡充

4. 河川冷気有効活用の研究

5. 現地見学会の開催 2回

6. スーパー堤防と街づくり勉強会 4回

7. スーパー堤防と街づくり研究会 10回

8. 西新小岩地区住民との勉強会 3回

9. ヒートアイランド防止と河川冷気の研究

講演会1回 気温測定活動 2回

10. ホームページの編集 12回

11. 広報紙の発行 2回

12. 建設技術開発助成制度（国交省）による
助成申請



《16年度事業報告》

1. 事業の成果

平成16年度は、西新小岩地区をモデル地域としてとりあげ、地域住民に現在おかれている環境が荒川・中川水面より数m低い状況にあること、地震等による堤防破壊が起これば地域一帯は水没すること、これを防ぐためにスーパー堤防建設が必要なこと等を認識して貢うための準備活動を行いました。

そのために、内閣官房都市再生本部の募集した「平成16年度全国都市再生モデル調査」の選定を受け次の活動を行いました。

- ①地震時の堤防決壊浸水シミュレーション
- ②荒川・中川の水位等表示板設置
- ③河川冷気の取り込み・有効利用によるヒートアイランド化防止策の検討この他スーパー堤防と一緒に街づくりの勉強会・研究会・見学会を実施しました。

2. 総会・理事会・評議員会・事務局会議等

5月13日に16年度総会・理事会・評議会を開催し、議案を審議し了承を得ました。

また、事務局会議を13回開催しました。

3. 事業活動

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| (1) 街づくり勉強会4回 | 研究会 10回 |
| (2) 防災街づくり支援・システムの適用に関する勉強会 | 5回 |
| (3) ヒートアイランド防止と河川冷気の研究会・講演会 | 1回、
気温測定活動 2回 |
| (4) シンポジウムの検討 | 3回 |
| (5) 現場見学会 | 4回 |
| (6) 潮位表示板設置協力要請活動 | |
| (7) 広報紙発行 | 2回 |
| (8) ホームページ部会 | 10回 |

平成17年度 会計収支予算書

自 平成17年4月01日
至 平成18年3月31日

(単位 : 円)

科 目	予算額	前年度予算	差異
I. 収入の部			
1. ①入会金及び会費	250,000	230,000	20,000
②臨時会費	0	0	0
2. 事業収入	0	0	0
3. 補助金収入	50,000	50,000	0
4. 寄付金収入	600,000	500,000	100,000
5. 雑収入	210,000	110,000	100,000
当期収入合計 (A)	1,110,000	890,000	220,000
前期繰越収支差額	791,381	612,644	178,737
収入合計 (B)	1,901,381	1,502,644	398,737
II. 支出の部			
1. 事業費	(810,000)	(700,000)	(110,000)
情報収集	50,000	150,000	▲100,000
地図作成	70,000	100,000	▲30,000
手法研究	50,000	50,000	0
地区選定	0	0	0
ケーススタディ	20,000	20,000	0
広報広聴	120,000	50,000	70,000
シンポジウム	300,000	0	300,000
要望活動	50,000	30,000	20,000
広報誌	150,000	300,000	▲150,000
2. 管理費	(540,000)	(550,000)	(▲10,000)
通信費	100,000	140,000	▲40,000
会議費	40,000	40,000	0
旅費交通費	230,000	50,000	180,000
消耗品費	50,000	150,000	▲100,000
印刷製本費	100,000	100,000	0
水道光熱費	10,000	20,000	▲10,000
雑費	10,000	50,000	▲40,000
3. 予備費	50,000	100,000	▲50,000
当期支出合計 (C)	1,400,000	1,350,000	50,000
当期収支差額 (A) - (C)	▲290,000	▲460,000	170,000
次期繰越収支差額 (B) - (C)	501,381	152,644	348,737

全国都市再生モデル調査関係会計収支予算書

収入：都市再生本部からの受託金	5,983,000	0	5,983,000
支出：浸水シミュレーション研究	2,000,000	0	2,000,000
：水位表示板設置	2,000,000	0	2,000,000
：河川冷・暖気の影響調査	1983,000	0	1,983,000
当期収支差額（収入一支出）	0	0	0

平成16年度 会計収支計算書

自 平成16年4月01日
至 平成17年3月31日

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. ①入会金及び会費	230,000	237,000	7,000
②臨時会費	0	0	0
2. 事業収入	0	0	0
3. 補助金収入	50,000	0	▲50,000
4. 寄付金収入	500,000	320,000	▲180,000
5. 雑収入	110,000	168,604	58,604
当期収入合計 (A)	890,000	725,604	▲164,396
前期繰越収支差額	612,644	612,644	0
収入合計 (B)	1,502,644	1,338,248	▲164,396
II. 支出の部			
1. 事業費	(700,000)	(278,595)	(▲421,405)
情報収集	150,000	27,123	▲122,877
地図作成	100,000	53,601	▲46,399
手法研究	50,000	46,175	▲3,825
地区選定	0	0	0
ケーススタディ	20,000	0	▲20,000
広報広聴	50,000	77,195	27,195
要望活動	30,000	0	▲30,000
広報紙	300,000	74,501	▲225,499
2. 管理費	(550,000)	(268,272)	(▲281,728)
通信費	140,000	91,792	▲48,208
会議費	40,000	57,964	17,964
旅費交通費	50,000	20,440	▲29,560
消耗品費	150,000	4,615	▲145,385
印刷製本費	100,000	90,311	▲9,689
水道光熱費	20,000	0	▲20,000
雑費	50,000	3,150	▲46,850
3. 予備費	100,000	0	▲100,000
当期支出合計 (C)	1,350,000	546,867	▲803,133
当期収支差額 (A) - (C)	▲460,000	178,737	638,737
次期繰越収支差額 (B) - (C)	152,644	791,881	638,737

シンポジウム「新小岩公園のスーパー堤防化の必要性と課題」

— 11月18日に江戸川区総合文化センターで開催 —

地元住民の視点で議論してみましょう！

[大部分が海面より低い地域に住んでいる]

かつて葛飾、江戸川、足立区は、毎年のように水害に襲われていました。しかし、下水道の普及等により、洪水が無くなり、記憶も薄らいでしまいました。その上伊勢湾台風を踏まえた防波堤の築造による安心感から、地域住民の多くは洪水に対する危機意識が徐々に低下し、無防備状態になってしましました。

これら3区の一部は、地盤沈下により、東京湾の干潮面（AP±0）よりも低く、中川等の河川の堤防が大地震による液状化等によってひとたび決壊した場合には、氾濫の恐れが極めて高い状況にあります。

さらに満潮時に大地震が発生し、破堤すれば、5mもの海水が濁流となって流入してきます。

ここ数年の異常気象ともいえる自然災害の発生は、大部分が海面より低いこの地域に対して警鐘を鳴らしていると見ることが出来ます。

しかも国の建築、防災基準等は、関東大震災などの既存の災害を基準に設定されています。

したがって、これらを上回る自然の猛威には残念ながら防護することが出来ないのが実状であり、減災的措置が必要なってきます。

◇開催日時 平成17年11月18日（金）13時30分から

◇開催場所 江戸川区総合文化センター小ホール（500人収容）

◇主 催（仮称）新小岩公園（広域避難広場）の機能強化を考える会

◇後 援 葛飾区・江戸川区

◇問合せ先 当NPO事務局 電話・FAX 03-3696-7480

「地域避難場所新小岩公園のスーパー堤防化を」

新小岩公園は、葛飾、江戸川両区住民約11万人の広域避難広場です。火災等に対する避難や食糧、飲料水等の備蓄施設は完備しているものの、低地であることから既存の災害を上回るような洪水には手が打たれておりません。

そこでシンポジウムを通して、地域の置かれている自然条件を客観的事実として認識し、そのうえで新小岩公園の持つ広域避難広場としての機能を、さらなる災害の発生にも対処出来る様に拡充整備する機運を盛り上げることをシンポジウムの目的にしています。

具体的には、地域住民の視点に立った新小岩公園の高規格（スーパー）堤防化の必要性と課題について、現実的、実質的な意見交換の出来るシンポジウムにしていきたいと思います。

[地元住民中心で開催]

このシンポジウムは、葛飾、江戸川両区の協賛を得て開催しますが、地元住民を中心とした仮称「新小岩公園（広域避難広場）の機能強化を考える会」が主催します。ご関心のある方は、是非開催準備やPRにご協力をお願いします。

“NPOアワード2004”に入選 会場で活動を紹介

「公益循環型社会の構築へ／21世紀市民セクターNPOの全てが分かる」というキャッチフレーズのもとに開催された“NPOアワード2004”で、当NPOの活動は高く評価され入選しました。平成16年10月22日東京海上火災本社で開催された展示会に出展し、多くの来場者にその活動を紹介しました。

この“NPOアワード2004”は、8月末に出展申請を締め切り、応募のあった100近くの団体の中から選ばれた30団体が、「市民活動賞」として表彰され、専用ブースで各団体が活動のPRを行いました。さらに、展示会終了後に5団体が「優秀市民大賞」を受けましたが残念ながら当NPOは入賞を逸しました

“東京湾ぐるっと一巡り” 見学会

新東京丸で臨海部の開発事業をみる

— 江戸川区松江地区の有志等53名参加 —

4月22日土曜日。午前中、一時厚い雲が張りつめてきたのでこれは雨かと思いましたが、午後になると少々風が強いものの、からっと晴れ渡り格好の海辺日和となりました。

この日、NPO法人「ア！安全・快適街づくり」が主催して、「東京湾ぐるっと一巡り」と銘打った見学会が江戸川区・松江地区有志の参加で行なわれました。

ふだん高速道路やゆりかもめ等の車窓から見慣れている東京臨海地区の景観ですが、船に乗って下から見上げて見ることで、また違ったイメージや新たな発見があるだろう考えました。

一方で私たちの地元中川左岸の現状と対比することで、その環境の違いを再認識して貰おうというのが見学会の目的でした。

はじめの内、参加者がどの位集まるのか心配しましたが、事務局の伊東春海さんと私が手分けして町会関係の人達に声をかけ、当日は53名の参加を得ることが出来ました。

私たちが乗り込んだのは、“新東京丸”という東京都港湾局の視察船で、全長約32m、総トン数197トン、白とベージュのツートンカラーが映える素敵な3階建ての船です。この船は、東京港の調査や研究を目的とする都民団体に平素から無償で利用されており、時には外国からの見学者を乗せて、海運国日本の港湾施設を海外にPRするのに大いに役立っているそうです。



さて、この“新東京丸”で午後2時に竹芝桟橋を出航した私たちは、案内役の脇田さんの名ガイドに耳を傾けながら、レインボーブリッジの橋桁を横目でやり過ごし、お台場海浜公園や船の科学館を左手に望み、左右にキリンの姿に似たカントリークレーンが建ち並ぶ青海、品川のコンテナ埠頭の間をすり抜けました。

中央防波堤の外側をぐるっと回りこんでからもと来た航路に戻ると、再びレインボーブリッジをくぐり抜けた辺りで、同船していた東京都港湾局臨海開発部の池田開発整備課長と都市整備局市街地整備部の越地臨海部担当課長が脇田さんに替わって、豊洲、晴海地区の道路や橋等の開発事業の説明を行いました。

この辺りは湾岸から都心に続く幹線道路が縦横に計画されていて、この地域を臨海副都心として名実ともに東京の顔にしたいという行政の意気込みが伝わってきました。

こうして、参加者のそれぞれの脳裏に様々な印象を焼き付けたであろう“東京湾ぐるっと一巡り”は、午後4時少し前、おおよそ1時間半の航海を無事終了しました。

新東京丸の船室を出て桟橋に立つと、4月の明るい日差しと心地よい海風が、心なしか私たちをやさしく出迎えてくれました。

(当NPO事務局 高田信一記)



冬の川は本当に冷たい？

1月29日中川沿川の気温測定（1月29日）に松上小の児童や
西新小岩3丁目町会の皆さん方が参加

「皆さん！冬の川は本当に冷たいかどうか測定して見ませんか」と当NPOが呼び掛け、これに応じて葛飾区西新小岩3丁目町会の方々、地元松上小学校の先生・児童及びNPO会員等総勢30名が集まり、平成17年1月29日（土）に中川（上平井水門～総武線）沿川の気温測定を行いました。観測は41地点で、気温、湿度、風向、風速を調査しました。

参加された方の感想文をご紹介します。



土岐 光子（松上小学校教頭）

平成17年1月29日、午前10時～午後4時まで、町会の有志の方々と一緒に冬の川風温度測定をしました。冬の川風が本当に冷たいのかどうか、グループに分かれての実例です。

朝風がとても寒く感じられる日でしたが、川から一番遠い場所より測定し、土手に到着した時のあの川風の暖かさ、心地よさは、感動的でした。

まるで春風が吹いているよう、土手の上でグループの人と暖を取りました。身体で実際に感じた通りに、温度計ににはっきりと高い数値が出ていました。一日測定した結果、やはり川風の近くの土手のところが高くなっていました。一緒に測った五年生の児童も土手が暖かいという現象に感激していたようです。

川風により、夏は涼しく、冬は暖かいという日本の四季に合った暮らししができると大変良いと思います。昔の人々は、その自然の原理を利用して暮らしを豊かに快適にしていたのだと思います。

コンクリート堤防ではなく、スーパー堤防による自然の良さを生かした堤防で、人々が土手で暖をとれる触れ合いのある快適な場所に変化したら何と素敵なことでしょう。

また、工業用水の確保のため、地下水が使われた結果、4mも地盤沈下しました。水面より4mも下がった所に住んでいる人々への水害対策は早急になさなければなりません。

広域避難広場である新小岩公園が、海平面より低い場所であるという現状を直視し、対策を立て欲しいと思います。

この厳しい状況を理解していただき、21世紀に生きる子供たちのために未永く成長し、発展する地域としたいものです。安全で快適な街づくりを目指して力を合わせ、知恵を出し合って作り上げたいと思います。

水の利を生かした水上バスの利用や水鳥の生息等自然の宝庫として素敵な町にして行きたいです。ご協力をよろしくお願いします。



気温計測中の第8班（右から2番目が筆者）



小川 美紀（当NPO会員）

今回、西新小岩3丁目町会長の鈴木さんと大成化工の森山さんがメンバーの第5班に加えていただき、初めて気温観測に参加しました。

地元に詳しいお二人に、昔から今までの街の移り変わり等のお話を伺うことができ、大変興味深く観測出来ました。以前街の中に川があったこと、雨が降ると道がぬかるんで大変だったこと、その後整備して現在の歩きやすいきれいな街に変わったこと等を伺い、改めて水と街づくりということを考えさせられました。

将来この地にスーパー堤防が出来たら、より安全でより暮らしやすい故郷と自慢ができるような素敵な街に生まれ変わるものではないかと思います。

松上小学校4年生が中川気温測定 3月3日

3月3日に当NPOが協力し、松上小学校の校外学習会が実施されました。4年生の2クラス49人が参加し、3つのテーマについて学習しました。子供たちは、計測器で中川周辺の数地点で気温を計測し、河川が近いほど冬の寒さや夏の暑さを和らげる効果を確かめました。また、中川の堤防際の建物から、中川の水位と地面の高さを比較しました。学校にご協力をいただき、学習内容と壁新聞形式のリポートに纏められた子供たちの感想をご紹介します。

1. 外気温と風向の測定

簡易温度計と風向測定道具を使い、予め決められた場所で気風向を測定し、水面、コンクリート、砂地など場所により違いがあることを知ってもらいました。

2. 体感温度と熱伝導率・輻射熱

・気化熱の影響・風の影響についての実験

◆鉄片と座布団に手で触れてもらい、感じた温度差を全員拳手により報告して貰ったところ殆どの人が鉄片の方が10°C~15°C位冷たいと感じていました。

鉄片と座布団の温度を測ると共に11°Cでしたが、座布団に比べて鉄の方が温度が早く伝わり、手の平の熱を早く奪うため、温度が低く感じることを学びました。

◆サーチライトの表面付近の温度と簾を入れて隔てた時の温度、さらに簾に水を散布した時の温度を比較したところ、段々低くなることが分かりました。各班長が熱いお茶をどうやって飲むかを、残りの人を見てもらいました。通常は、お茶の表面をフーフー吹きながら飲みますが、気温は風速1mで約1°C下がるといわれています。

3. 新小岩の地形についての学習

新小岩地区の地形について学習するため、堤防際にある大成化工（株）で、プロジェクトを使って中川～江戸川間の断面図を見せて貰いました。これには、干潮時水位、満潮時水位、過去最高水位が示されています。

その後、堤防と同レベルの3階から中川を見て中川の水面の高さを実感してもらいました。

NPOの徳倉副理事長から、西新小岩地区の地面は、干潮時の水面より僅かに高いが、新小岩地域には干潮時の水面より低いところもあること。満潮時の水位は地面より約2mの高さになる等の説明がありました。

平成17年3月

時間	場所	気温	風の向き	日記
1:35	松上小学校門前	20.1	北西	3月30日
1:50	中川の水の中	10.2°C	南	3月30日
1:50	中川の水面	4.1°C	南	3月30日
1:52	中川のテラスのコンクリート	12.2°C	南	3月30日

葛飾の低地新聞

稻城市住宅密集地域 のスーパー堤防建設

☆☆現場見学会（11月12日）☆☆

平成16年11月12日、稻城市が矢野口地区で国土交通省と共同で推進中のスーパー堤防建設と街づくりの見学会が行なわれました。

参加者は、14名と少なかったのですが、初めての住宅密集地域でのスーパー堤防建設と街づくりの現場見学会であり、同様な環境下でスーパー堤防と街づくりを目指している我々にとって収穫の多い1日となりました。

当日は、まず稻城市役所で事前説明が行われました。このスーパー堤防事業は、平成4年から稻城市が進めていた矢野口地区土地区画整理事業の一部が平成12年に国土交通省との共同事業に切り替わったものです。

総事業費58.63億円、対象面積3.3ha、延長400m、幅100m、地権者148名、移転対象建物108棟、平均盛土約1.4m、最大4.0m。事業は3工区に分けて、西側のA、B2工区の建物移転を13年度から実施しています。

このあたりは、過去に浸水被害を起こしたことがあり、スーパー堤防建設の必要性に対する理解は得られ易かったのですが、一部に反対意見もありました。現在B工区では、全ての建物移転、盛土が完了し、戻ってきた人々によって13棟の新しい建物が建設されています。

一方A工区では、77権利者中数件が移転に協力が得られず交渉中です。減歩率(平均約23%)や移転先の不満、営業への影響等が理由となっています。

堤防完成後、その上に建設する街については、A工区は、稻城市の東の玄関口ともいえる地域なので、それなりの景観を持った地域になることを市としては期待しています。

このため、住民に新しい街づくりの勉強会を開いて貰い、多摩ニュータウンの見学会等も実施してよりよい街にするにはどうしたらよいかを検討して貰っています。

すでに建設が始まっているB地区については、ブロック塀を安全性、防犯上の見地から下2段積程度とし、その上に生垣を設置する等最低限の基準について協力は得られました。

しかし、家の高さ、屋根瓦、壁の色等はまちまちで、景観への配慮に対する希望が受け入れられたとはいえない状況にあるとのことでした。残る東側のC地区は、A地区での経験を踏まえて「移転開始までに全員合意が得られるよう努力する」との意気込みで進められています。

事前説明の後、A工区とB工区の見学を行ないました。A工区は何棟かの建物がまだ残っており、強制収用も困難で今後の移転交渉の難しさを感じさせました。早くに移転した建物は、仮住居滞在期間が延びることによって新たな費用が発生し、区画整理事業の採算性に影響しています。

B工区では、一部の住民が戻ってきて、再び戸建住宅を建設しています。既に建っている家は、高さ、造り、壁や屋根の色等バラバラで纏まりが無く、折角の新しい街づくりのチャンスが生かされていないのは残念な感じがしました。

また、スーパー堤防の川寄りには、交通量の多い道路が走っているため、川へのアクセスは横断歩道を通りねばならず、水に親しむという面ではマイナスとなっています。矢野口地区のような住宅密集地域でのスーパー堤防事業の難しさを色々感じさせられました。



スーパー堤防B校区の見学

我社の社史で見るスーパー堤防の必要性

延満 一記 大成化工(株)

私が大成化工（株）に入社したのは昭和40年4月でしたが、現在では最古参の1人になったこともあって、当NPOの副理事長でもある徳倉社長より先輩が編纂した当社の創業時（大正14年1月）からの社史「大成化工の歩み」（初版平成15年7月）の改定版を編集する旨の仰せを受け、平成16年9月に終了しました。

この社史によると、当社が現在の地（葛飾区西新小岩3-5-1）にセルロイド工場を建設したのは、昭和3年2月となっています。その頃の住所は、東京府南葛飾郡奥戸村大字上平井2330番地となっており、「中川の左岸に位置する工業用地は物資輸送の水運に恵まれた立地である」と記されています。

ここでいう「水運」とは、中川を使った船から原料や資材、燃料を荷揚げすることで、当時としては、工場の重要な立地条件であったのです。

従って、当時は地盤の沈下も無く、堤防もかなり低かったのだと想像できます。

地盤沈下といえば、その主因が地下水の汲み上げであることは周知されるところです。当社も例に漏れず。セルロイドの主原料である硝化綿の水洗に大量の地下水を使用していましたが、昭和31年に制定された「工業用水法」により、その汲み上げの中止を余儀なくされました。

この中川については、特筆すべき事項として、昭和22年9月のカスリーン台風について「9月14日関東地方に上陸したカスリーン台風は、関東を中心として広範囲に豪雨をもたらし、各地域の河川は氾濫し、大洪水となった。9月16日には利根川（栃木県栗橋付近）が決壊、同月19日には区内桜堤も決

壊し、同夜8時頃、濁水はとうとうとして新小岩、西小岩に流れ込み、ついに上平井工場も浸水の被害を受けた」と記されています。この水害の被害の復旧には、1ヶ月半かかったとのことです。今から58年前に、実際にこういう水害があったわけです。

また、私が入社した時、7歳上の先輩が「自分が入社した時は、昼休みに泳いで中川を往復していた」と言っていたのを憶えていますが、当時は水も相当きれいだったのだと思います。

当社の最大の特筆事項は、「火事の大成」といわれていたことで、昭和47年7月の火災事故では、或る新聞で、「火事を安売り、とんだ公害工場・・・」と報道されたことです。

そんなこと也有って、本田消防署との関係は、否応無しに深くならざるを得ませんでした。

消防というと、防火対象物の権原者は消防計画を作成し、提出しなければなりません。消防計画には、大規模地震の警戒宣言発令時の近隣住民も含めた避難計画を織り込むことが義務付けられています。

その中では西新小岩3丁目の人々は、広域避難広場である新小岩公園に避難することになっているのです。

私がNPOの活動を知った時、このことを思い出し、「もし中川の堤防が決壊してこの地域が冠水したら、低地帯に住む住民が低地帯である避難場所へどうやって避難し、本当に難を逃れられるのか。また消防は火災や救急を重視しているが、水害については、なぞりになっているのではないか。」という単純な疑問を感じました。

そして、本田消防署員の方と会う度にスーパー堤防の必要性を説いている今日この頃です。



昭和50年代の大成化工（株）の西新小岩工場（左手が中川、奥は上平井水門）

え！こんなに低いの 水位表示ポール西新小岩地区に8箇所設置

東京東部低地帯は、地盤沈下により、大地震で堤防が一箇所でも決壊すると、たちまち魚やカニの棲む水底になってしまいます。

そこで当NPOでは、過去の台風で、どの位の高さまで中川の水位が上がったか、又地域の地盤が中川の水位とどの位違うかを住民の方々に知って頂くため、自治体等と協働して地元と話し合いを行いました。

その結果、17年3月、「水位表示ポール」を東京都葛飾区西新小岩地区に8箇所設置することができました。

当初、過去の経験から地域が低地帯であると表示すること自体、地元の方から「地価に影響する」と反対されるのではと予想しました。

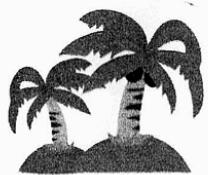
しかし、最近の大地震、大津波、台風による水害の頻発が「水位表示ポール」設置に賛成するきっかけとなり、実現しました。

これにより、地域の方々が低地帯であることを改めて知り、日頃から防災対策や避難に一層の関心を持ち、常に心の備えを怠らないようにして頂きたいと思います。

さらに今後、この「水位表示ポール」が、西新小岩地区だけでなく沿川の低地帯に住む人達の知るところとなり、各地域に同様の水位表示標が設置されるよう望みます。

水位表示ポール設置箇所一覧

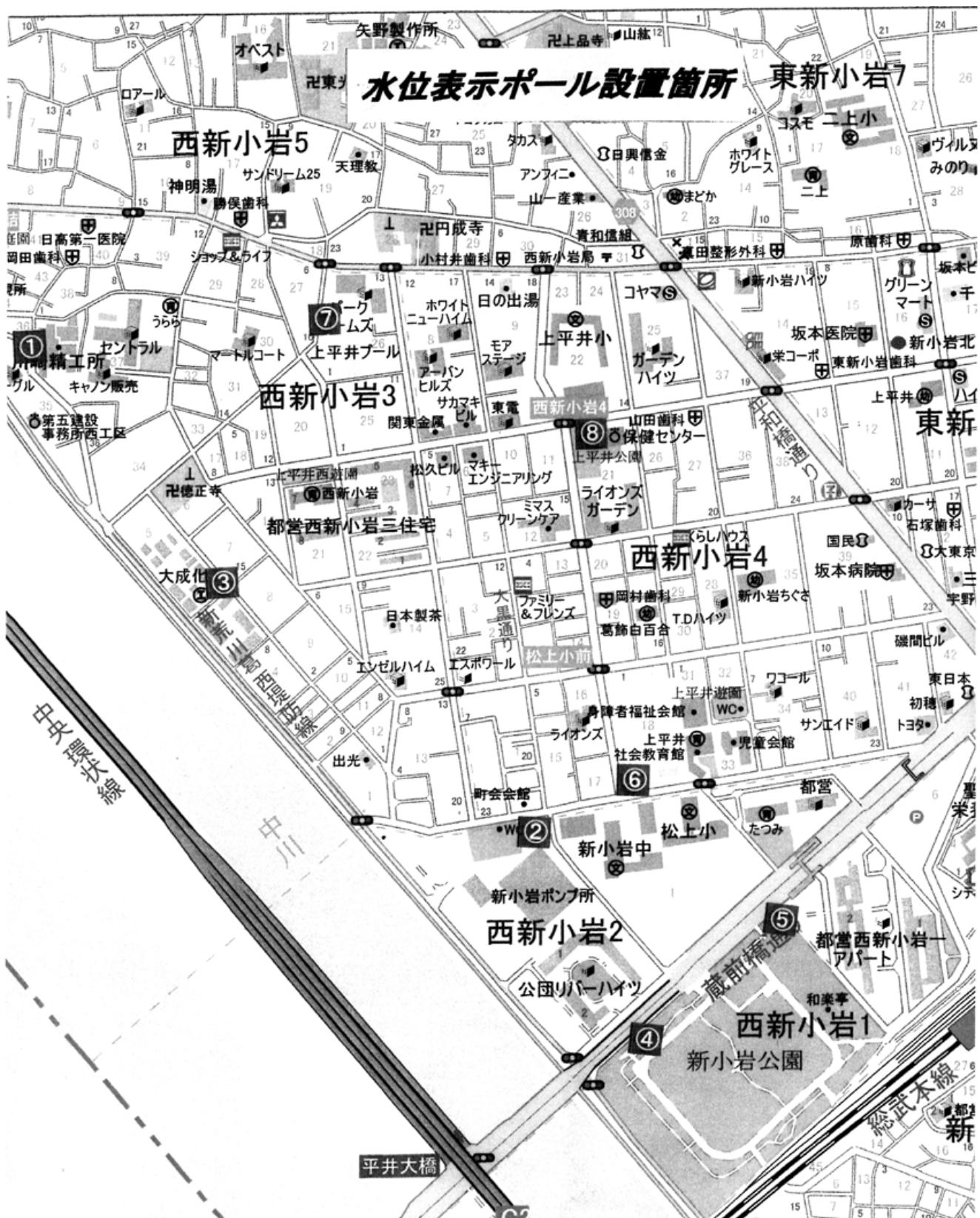
	施設名	住所
1	上平井集会所	西新小岩3-36-4
2	間栗公園	西新小岩2-1-4
3	大成化工	西新小岩3-5-18
4	新小岩公園西	西新小岩1-1
5	新小岩公園東	西新小岩1-1
6	旧松上小学校	西新小岩4-18-1
7	西新小岩三丁目	西新小岩3-26-7
	児童公園	
8	上平井公園	西新小岩4-21-12



今回設置した水位表示ポール



ポールの上の印は過去最高水位・下の印は満潮時水位



石川理事長に 新年度の抱負を聞く

- (編集) 当NPOの活動も、17年度で4年目を迎えますね。
- (石川) これまでの4年間は、堤防の高台化と一体の街づくりの必要性を認識して貢うための準備活動に全力を上げてきました。お陰様で、ようやく地元の方々と話し合える雰囲気が出来てきたと思います。
- (編集) 11月に開催予定のシンポジウムはその表れですね。15年の秋に、葛飾区テクノプラザでシンポジウムを開催しましたが。
- (石川) 一昨年は、堤防の高台化の一般的啓発を目的に開催しました。17年度のシンポジウムは、新小岩公園の高台化という具体的テーマについて論議されます。更に重要な点は、地元の方々が中心になって開催されることです。
- (編集) 昨今、地震、大津波、台風の水害等の自然の猛威が相次いで、防災対策について地元の関心も高まっているでしょうね。
- (石川) 昨年度に実施した水位表示ポールの設置は、地元から「地価に影響する」という声が出て難航するするのでは、と心配していましたが、ご理解をいただけました。
- (編集) 「新小岩公園の高台化」がテーマになったのは何故ですか。
- (石川) 新小岩公園は、地元葛飾・江戸川両区11万人の避難場所ですから、火災等に対する避難施設や食糧、飲料水等の備蓄施設は完備しています。
- しかし、低地に造られていることから、大地震が引き起こす中川堤防の破堤による洪水に対しては、残念ながら無防備な状態にあります。
- (編集) 住民の皆さんにとって、早急な対応が迫られているテーマですね。どのようにこのテーマに取り組むのですか。

(石川) 葛飾・江戸川両区や東京都はもちろんですが、地元の方々と相談し、地元の方々を中心と設立された「街づくりの会」が主催して、内容のある実質的な意見交換の出来るシンポジウムになることを願っています。さらに、新小岩公園の高台化の動きが新小岩地区の街づくりの大きな第一歩となることを期待しています。

(編集) 新小岩公園のスーパー堤防化の進展は、「スーパー堤防と一体となった街づくり」に対する地元の皆さんの関心が今後どの程度高まるかにかかっていると思いますが。

(石川) その通りです。昨年度に引き続き現場見学会や気温測定活動に1人でも多くの地元の皆さんに参加していただこう呼びかけていきます。また、昨年度作成した「浸水シミュレーション」は、地震時に堤防が決壊した場合に、どのような状況になるのかを具体的な画像で示したものです。地元の皆さんの関心を高めるためには極めて有効な手段です。

しかし、ようやく土台が出来た段階ですので、葛飾・江戸川両区のご協力をいただき、内容を充実していきたいと思います。

(編集) ありがとうございました。

会員募集中です！
問合せ先 大成化工(株)福嶋
Tel・Fax:03-3696-7480

発行 特定非営利活動法人
「ア！安全・快速街づくり」
〒124-8535
東京都葛飾区西新小岩3丁目5番1号
Tel・Fax 03-3696-7480
E-Mail tegami@banktown.org/
ホームページ <http://www.banktown.org/>

